Engineer

テスト・品質保証

44 件の実績

システムの各部分を結び付ける

「テスト・品質保証」に分類した実績は、稼働するシステムの一部分を示しています。その部分を他の業務につなげるお手伝いをします。 データの保存先、処理のルール、他のシステムとの接続方法など、利用者の目に見えない部分をつくります。

サービスを見る お問い合わせ →

比較できる課題を探す

ご自身の状況に近い事例をご覧ください。振り返りでは、技術名だけでは分からない、結果を導いた判断を説明しています。 ETL/ELTパイプライン6本を設計・運用 — 6 3種類のDBエンジンにまたがるETLパイプライン

ETL/ELTパイプライン6本を設計・運用 お問い合わせ →

CI/CDの効率化で4,000時間を削減

ソフトウェア開発パイプラインを自動化してCI/CD工程を効率化し、4,000時間を削減した。

APIを100%の一致でHuma v2へ移行

HTTP APIの649パス・760操作をFiberからHuma v2へ移行し、サーバーが登録するルートと公開するOpenAPI記述の100%一致を達成・維持した。

データベースを起点にAPI契約を生成

データベースを起点に、OpenAPI、44,076行の型付きTypeScriptクライアント、61個のモックハンドラー、UIが適用する制限を生成し、各段階に不一致で失敗する検査を設けた。

GitHub Actions CI/CDパイプラインを構築

本番フロントエンド用のdistrolessイメージと複数環境間の昇格を備えた、GitHub ActionsのCI/CDパイプラインを構築した。

go-taskの自動化ターゲット578個を作成

ネイティブ、Docker、HTTPSの開発モード、静的検査、テスト、データベース、デプロイをカバーする、go-taskの自動化ターゲット578個を作成した。

6言語に警告ゼロの基準を設定

Go、TypeScript、SQL、Python、Shell、Markdownの6言語に警告ゼロの品質基準を設け、pre-commitフックで適用した。

Go・SQL・ブラウザーのテスト群を構築

981件のGoテスト、543件のフロントエンド・ブラウザーテスト、494件のSQL動作テストを持つ多層の自動テスト群を構築し、ミューテーションテスト、プロパティベーステスト、アクセシビリティの品質ゲートを加えた。

268検査を持つリポジトリの検査基盤を構築

登録済みコミット検査268件、静的検査ルール277件、独自ESLintルール15件からなるリポジトリの検査基盤と、検査自体を試す146件のテストを構築し、人のレビューだけに頼らずビルドで基準を守るようにした。

1,022件のマイグレーションを差分検査で保護

新規インストールと、インストール後に全マイグレーションを適用する2通りでデータベースを構築し、不一致で失敗するCIゲートを設け、1,022件のマイグレーションにわたるスキーマの整合性を保った。

SSHの24設定項目を検証・堅牢化

SSHの24設定項目を、候補ファイル、統合済み設定、デーモン自身の読み戻しによる3段階で検証するよう堅牢化。読み戻しによって、稼働中のサーバーが24項目のうち2項目を黙って上書きしていたことを検出した。

実行ごとに侵入元の遮断を実証

堅牢化の実行ごとに、予約済みテストアドレスを遮断し、生成されたカーネルルールを読み、必ず実行する後処理で遮断を解除する一連の検証を設け、jailの故障が正常報告ではなく実行失敗になるようにした。

ファイアウォールルールを位置で検証

存在するルールが実際のパケットに到達されるとは限らないため、番号付きルール一覧と稼働中のパケットフィルターチェーンを読み、ファイアウォールルールを存在だけでなく位置で検証した。

Ansibleチェックモードを実態に即した検証に

Ansibleのcommandモジュールが--checkでコマンドを省略しながら成功を返すため、ホストから得ていない値で判断していた6個の検査を修正し、プラットフォーム全体のチェックモードが実態を伝えるようにした。

秘密情報の1秒の事前検査を追加

本番実行が9番目のタスクで停止し、すでにスワップ設定が稼働ホストへ書き込まれた事態を受け、運用担当者のローカルな秘密情報に対し、収束処理と同じコードを約1秒で実行する事前検査プレイを追加した。

全ユニットのsystemdサンドボックス露出を低減

この基盤が導入するすべてのユニットのsystemdサンドボックスの露出度を低減。デッドマンズスイッチのサービスを9.6 UNSAFEから1.5へ、インターネット公開のgitホスティングを8.3 EXPOSEDから1.5へ改善し、3つのユニットテンプレートで黙って無視されていた設定名の誤記を受け、収束時の構文検査を加えた。

22静的検査のコミットゲートを構築

HTML、CSS、JavaScript、Python、YAML、Markdown、Shell、リンク、綴り、秘密情報、組版を対象に、1行で説明できる検査22個と詳しい説明が必要な検査5個からなるコミットゲートを構築し、警告扱いや行内抑制を認めない方針にした。

30分も待たずに済む品質検査

最長の検査から順に、最大4並列のワーカープールへ割り当て、ブラウザーを使うサイト品質ゲートを1,636秒から615秒に短縮。名前順では224秒に対して320秒を要するという測定を踏まえた。

27種類の文字サイズを6段階の体系に統一

隣り合うサイズの差が0.6%しかないものもあった27種類の文字サイズを、長3度比による6段階の体系へ置き換え、28種類目を拒否する静的検査を作成した。

32ページを両テーマでアクセシビリティ検査

両配色テーマの代表32ページにWCAG 2.2 Level AA検査を実装し、適合記録とAAA基準1項目の検査を備え、基準1.4.13の部分的な達成を明示した。

自動検査が見逃すアクセシビリティの問題

pointer-eventsで操作を隠してもTab移動に残るフッターリンク8個、3ページの奥付を切り落とすスクロールタイムライン、105ルール中70しか実行しない検査エンジンなど、ブラウザーが正常と報告した11件のアクセシビリティ不備を発見・修正した。

配色を28色に限定

配色を文書化した28色に限定し、描画されるのに未記録、記録されるのに未使用、測定誤り、リテラルによる別表記、既存色との知覚的距離が0.02以内、という場合に失敗する静的検査を設けた。

ライトテーマに欠けた層を発見

両テーマで各多層面に同じ数の層が描画されることを検証し、ライトテーマに作成当初から全面オーバーレイ層が欠けていたことを発見した。

「動きを減らす」設定を正しく反映

クラス付きルールには、全要素のトランジションを無効にするルールが詳細度で負けるため、「動きを減らす」設定でもアニメーションを続ける11個のセレクターを修正し、設定が正しく効くようにした。

更新日時が共通のサイトマップを修正

エクスポートが毎回すべてのファイルを書き直すことを確認し、git履歴から更新日を取得するよう変更。176件のURL中172件が同じ更新日時だったサイトマップを修正した。

文書を独自の静的検査で管理

文書に、引き下げのみ可能なファイル別行数上限、目次要件、実在パス検査を設けた。完了扱いの9計画中6計画に未完了項目があり、コミットを制御する14タスクがどの文書にも記載されていないことを検出した。

10,242行の品質ゲート自体に静的検査を適用

リポジトリ最大のコード群でありながら検査対象外だった品質ゲートのJavaScript 10,242行に整形・静的検査を適用し、13件の指摘を抑制せずに修正した。

生成器に981テストと92%カバレッジを適用

警告を失敗扱いにし、分岐カバレッジ92%を下限として生成器に981件のテストを適用。空のファイルから全構築処理を2回実行し、2回目に何も変わらないことを要求して冪等性を検証した。

PDF/UA-1プロファイルの106項目中106項目に合格

9文書のPDF/UA-1検証を記録し、設定済みアクセシビリティプロファイルの検査106項目中106項目に合格した一方、アーカイブ版は146規則のうち1項目で不合格だった。

すべての静的検査ルールをエラーに設定

Python静的検査の全ルールをエラーとして有効にし、1,815件の指摘を0件まで解消。少数の例外には理由を書き、うち2件はコメントだけでなく検査によって根拠を守った。

522行のQR符号器を同梱

実行時の3つ目の依存関係を追加せず、GF(256)上のReed-Solomon、固定モジュール配置、8つのマスクパターンを持つQR符号器を522行で同梱し、独立に実装した復号器で完成行列を読み戻して検証した。

検査自体のテストを作成

正常入力しか与えない検査は、何も読まずに正常と報告するようになり得ると確認し、検査自体のテストを作成。誤字を埋めて綴り検査の検出を確かめ、テスト内の固定値ではなくデータベースからID範囲を取得した。

フックと品質ゲートの不一致を発見

同じ検査を行うという文書の記述に反し、コミットフックと品質ゲートが異なる検査を行っていたことを、一覧を比較するテストで発見。手動でしか動かなかった5個は履歴書の文章を検査するものだった。

gitホスティングCIを試し2不具合を発見

gitホスティング側のCIフックを予行実行し、ファイルを読むだけでは到達できない2件の不具合を発見。解決不能な引数を入力へ渡すフォールバックと、検査先に引き継がれ19テストを失敗させるgit自身の環境変数を修正した。

言語間の数値照合を構築

英語原文にある数値の欠落と、対象言語に合わない表記で失敗する言語間コンテンツ検査を構築し、指標が抜けたデンマーク語説明2件と英語式引用符を使うウクライナ語16箇所を検出した。

macOSアプリのイベントパイプラインに上限を設定

毎秒41 MBの増加と、36 GB端末で111 GBの圧縮ページを記録したmacOSの障害を受け、イベントバッファとログ出力に上限を設定。記録された全テスト実行では、コアのログ行が610,996から1,411へ減った。

C上にSwift 6の厳密並行処理を採用

インターフェースに必要な順序がイベントごとのタスク生成で失われると確認し、独自アクターを用いずSwift 6の完全な厳密並行処理を採用。ブロッキングCイベントループとメインアクターを、生産者1つ、消費者1つ、順序1つで接続した。

全FFI呼び出しを検証する構文解析器を作成

手書きの仮Cヘッダーで、削除済みの3関数を呼んでもコンパイル・リンクが通り実行時に落ちた問題を受け、実際の7,308行のCヘッダーを読み、全呼び出し箇所、列挙定数、ポインター所有クラスのfinal指定を検証する構文解析器を作成した。

テスト群を8.9秒に短縮

メインスレッドを測定し、4,017サンプル中3,989サンプルを費やす2つの呼び出しを除去。6テストで60秒の制限を超えていたテスト群を、135テストが8.9秒で通る状態に改善した。

全17アイコンに読み上げ用の名前を付与

送信ボタンが「arrow up circle, button」と読み上げられる問題を受け、アイコンだけの全操作要素にスクリーンリーダー用の名前を付け、アイコンから8行以内のラベルを必須とする静的検査を作成した。

48トークンのmacOSデザインシステムを構築

プラットフォーム標準のガラス素材を使った48トークンのデザインシステムを構築し、マジックナンバー、固定文字サイズ、「動きを減らす」設定を無視するアニメーションを拒否する静的検査を作成した。

未使用だったコアの半分の機能を実装

バックアップ転送、消えるメッセージ、編集・再送、確認済み招待、プロキシ、暗号化方針など、アプリケーションが未使用だったメッセージングコアの半分の機能に対応し、モックなしで実ライブラリに対して全テストを実行した。

利用者を責めないエラーメッセージに改訂

実際にはプロバイダーがアプリ専用パスワードを要求していたのに、サインイン拒否を利用者の入力誤りとするエラー表示を受け、文書化した文体基準に従ってメッセージを書き直し、プロバイダー名を明示するテストを加えた。

2点の図からビジュアルアイデンティティを構築

手描きの2点の図から会社のアイコンとファビコン一式を構築し、すべての派生素材をスクリプトで再生成できるようにして、元ファイルより先に派生ファイルがコミットされた場合は検査で失敗させた。

6収集処理が省略した入力を明示

6つのレポート収集処理が、未読ファイル、未導入の検査、認識できなかったjournal行など、読み取れなかった入力範囲を明示するよう変更。収集不能と正常なホストが同じページになると確認し、116件の実測サンプルから閾値を定めた。

技術的な取り組みを絞り込む

業務の流れ、既存のインターフェース、変更を必要とする利用者をお知らせください。検証可能な納品内容と、お客様のチームが保守を続けられる引き継ぎ内容を定められます。

料金を見る お問い合わせ →

自社の状況に当てはめる

お使いのシステムで「テスト・品質保証」がどのように関わっているかをお聞かせください。適したサービスを選び、その業務範囲を定めるお手伝いをします。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く

連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://engineer.company/ja/categories/testing/